



「染織名作展」と松坂屋コレクション

平成27年8月29日(土)→11月24日(火) 休館日:10月20日(火)
前期:8月29日(土)→10月19日(月) / 後期:10月21日(水)→11月24日(火)

戦時体制下の自粛傾向へと流れ込む直前の昭和初期は、一般庶民の生活が向上するとともに、女性のファッションへの興味が高まり、服飾文化が華やかな時代でした。

ファッションの傾向は、西欧風の影響を受ける一方で、日本古来の伝統的デザインを求める流れも次第に大きくなっていました。

松坂屋は、こうした時代の風潮を読み取り、伝統的な技術を駆使し、昭和時代の文化財として後世に伝えていくことができる呉服の逸品の創作に力を注ぐことになりました。

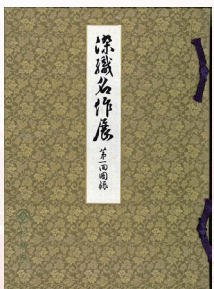
そのため、昭和6(1931)年に京都に染織参考館を設置し、小袖や裂地など時代染織の名品収集を積極的に行いました。また、染め・織り・絞り・刺繍などの分野で優秀な技術を持つ生産問屋に協力いただき、制作同人を結成し研究を重ねました。

こうした成果として、昭和10(1935)年秋、第1回の「染織名作展」を帝国ホテルなどで開催し、のちに「松坂屋にすぎたるもの」とまで称えられる、松坂屋を代表する呉服催事となりました。その意匠美は「名匠コレクション」と名を変え、現在に受け継がれています。

今回の企画展では、約70年におよび松坂屋の呉服文化を彩った「染織名作展」の格調高い意匠美とともに、取材源となった所蔵の時代衣装「松坂屋コレクション」の逸品をご紹介します。



染織名作展屏風 二曲一双 昭和14(1939)年



染織名作展第1回図録
昭和10(1935)年





「染織名作展」の作品の多くは、所蔵の時代衣装「松坂屋コレクション」の意匠を参考に制作しました。日本古来の伝統文化として、時代を超えて受け継がれる格調高い世界が表現されています。発表した作品の図録と、参考とした衣装、裂地等をあわせてご紹介いたします。



訪問着
霞取日本三景模様
昭和38(1963)年制作
※図録展示

制作参考品
白木綿地日本三景模様浴衣
(江戸時代後期)

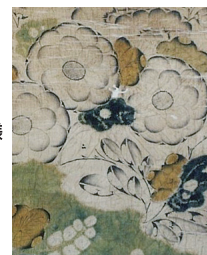


前期展示

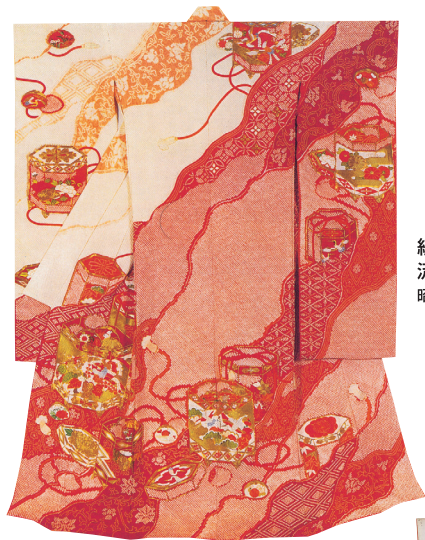


型訪問着
春秋草花辻が花模様
昭和56(1981)年制作
※図録展示

制作参考品
萌葱絹地雲取菊模様
辻が花裂
(桃山時代)



前期展示



絞織振袖
流麗貝桶模様
昭和59(1984)年制作
※図録展示

制作参考品
白綿子地貝桶模様振袖
(江戸時代後期)

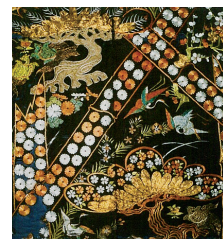


後期展示



黒留袖
瑞祥宝尽し
平成元(1989)年制作
※図録展示

制作参考品
松竹梅鶴亀模様小袖裂
(江戸時代初期)



後期展示



松坂屋・名古屋店

電話(052)251-1111【営業時間】本館地下2階~3階、南館地下2階~3階、北館1階は10時→20時
その他のフロアは10時→19時30分 ただし、本館9・10階、南館6・7・10階、北館地下1階で営業時間が異なる店舗もございます。南館4・5階、6階(一部)は改装工事のため閉鎖しております。